

中部支部 総会報告

会員支援委員会理事 水谷 忠 司

ICD日本部会中部支部の総会が2010年10月17日(日)にホテルナゴヤキャッスルにおいて開催されました。日本部会会長の天野 恵フェロー、副会長の小林菊生フェロー、事務局長の小板橋誠フェローを来賓としてお招き致しました。

開会に先立ち中部支部の支部長 近藤俊彦フェローより挨拶並びに支部活動状況の報告がありました。議案では日本部会の小板橋フェローより「2011年・冬期学会開催に関する提言(案)」が提案されました。冬期学会を支部開催でと云うことは初の試みでもあり、会議では活発な意見交換が行われました。

総会后第1部 学術講演会は愛知学院大学歯学部保存修復学講座准教授の富士谷盛興フェローより「交通整理をしよう!ワンステップボンディング材、フロアブルレジン、知覚過敏抑制剤」という演題で行われました。それぞれの材料の特性、使用時の注意事項など

先生独特の話し方で解説があり日常臨床にとっても役立つ内容でした。

第2部 文化講演では薩摩五弦琵琶の奏者 細川華鶴子氏をお招きし「平家物語 壇ノ浦の戦い」の演奏をして頂きました。琵琶の深い音色と細川氏の凜とした声に全員が聴き入ってしまいました。普段、あまり目にする事のない「琵琶」という楽器についても色々ご説明を頂き、好奇心のかたまりの我が支部会員からもいくつか質問が出されましたが丁寧に答えて頂きました。

最後は会員夫人も加わっての懇親会が水谷フェローの司会進行で始まりました。参加者全員にマイクが向けられると、自己PRに始まり自己反省、家庭内での蘊蓄はたまたマジックなど特技まで披露され、中部支部ではいつものことながら多いに盛り上がり一本締めでお開きとなりました。



参加者全員での集合写真



近藤支部長のあいさつ

支部設立に向けての胎動

地区理事 久保田 晃
武部 裕光

(社)ICD日本部会四国支部の活動報告について執筆依頼が届いたが、残念ながら「四国支部」はまだありません。小室マスターが会長のころ、一度「飯でも食ukai」なんていう会を企画したらどうだ…とサジェスチョンをいただいてその気になりましたが、日時が折り合わずそのままになっております。

これとは別ですが、武部先生の音頭とりで、こんびら歌舞伎を見る会がなんとなく出来上がり、有志で毎年4月に香川県に集いて旧交を温めております。その詳細については、武部先生にバトンタッチします。

2008年、武部が所属していた広報・編集委員会（飯高道常任理事、隅田百登子理事、鈴木設矢委員長、水谷忠司副委員長、当時）のメンバーを中心にして「せとうち研究会」を発足し、初めての例会を4月15日香川県高松市で開催しました。委員会外からも小室マスター、久保田晃理事、石井拓男フェロー、樋出 誠フェローほかの参加をいただきました。高松空港に集合し、栗林公園などを観光し琴平へ移動、江戸時代のままにリノベーションされた金丸座でこんびら歌舞伎を鑑賞しました。この年の座頭は襲名直後の坂田藤十郎でした。歌舞伎鑑賞後ハイテンションなまま高松へ移動し、19時から始まった瀬戸内料理で評判の割烹「來」で懇

親会を開催しました。日ごろの臨床や歯科医政、歯科医学の将来像など多岐にわたってディスカッションが行われました。畳の部屋で膝を突き合わせての会は、本音トークンとなりましたが、出席者は年齢も、開業地も、出身大学も共通項が少なく、ただICDフェローという共通項でのみ同席しています。これこそがICDならではのことでないでしょうか。翌日は今話題の「直島」を観光しましたが、その時の写真が50周年記念誌の表紙を飾りました。

「瀬戸内研究会」はその後出席者も固定されたものではなく年によって変化しますが、毎年4月の第3土曜日に開催されています。今年のこんびら歌舞伎は松本幸四郎、市川染五郎親子の共演で、レベルの高い舞台芸術が参加者を感動させました。歌舞伎鑑賞後はやはりハイテンションとなり、その後の懇談会で白熱します。地区外の著名な会員が四国を訪問していただいていますので、この「瀬戸内研究会」を核に四国支部に発展できたらと思っています。今ICDは東京、名古屋、大阪、福岡で開催されていますが、たまには地方でもミニ集会の開催を検討していただきたいと思っています。

